

## なかよし(人権教育)月間

11/4~27

「みんなを大事にしよう」を合い言葉に、友達や自分についての理解を深めるとともに、身近な差別や偏見に気づき、それを許さない判断力と実践力を身につける学習や活動を重ねてきました。



クラスごとにめあてを考え、それぞれの木に名前をつけて取り組みました。

めあての振り返りをし、がんばったことやできたこと、友達のよい姿等を書いて貼っていきます。1ヶ月の取り組みで、どのクラスの木も豊かに実りました。



- 1-1 いいところいっぱいの木
  - 1-2 じぶんからあいさつの木
  - 2-1 ありがとうの木
  - 2-2 おもいやりの木
  - 3-1 えがおいっぱいの木
  - 3-2 やさしさの木
  - 4-1 おもいやりでつながる木
  - 4-2 なかよしの輪がにつながる木
  - 5-1 みんなが笑顔になる木
  - 5-2 関わり合いの木
  - 6-1 他人をおもいやる木
  - 6-2 Thank youの木
- にこにこ なかよしの木



異学年の「すてきな姿」「頑張っていた姿」「ありがとう」等を書いて、児童玄関西側の木に実らせました。

期間中に取り組んだ縦割り清掃や児童会活動で見つけた上級生・下級生のよさがたくさん書かれています、心が温かくなります。



期間中に学習してきたことをもとに、人権に関わる標語を作りました。

「『だいじょうぶ』とこえをかけるとうれしいよ」(1年)

「あいさつは マスクがあっても 笑顔だよ」(6年) 素敵で、そして大切な標語ばかりです。



伊藤院長先生のお話から、おもいやりの大切さを学びました。

病院の医師になるには、勉強も大切だけど、人を思いやることも大切なんだなと思いました。今、コロナで病院のことでたくさんのニュースになっているから、それだけ医りよう従事者は大変なんだなと思いました。飯綱病院の写真を見た時にびっくりしたことは、病院内でも訓練をしているところでした。(中略) 医師やかんご師、他にもたくさんの医りよう従事者は、私たちにとって大切な人たちなんだなと思いました、人々へのやさしさを持った医りよう従事者のみなさんは、良い人たちなんだなと今日聞いた話で思いました。(5年)



## やきいも・仲良し集会

19日(木)の1,2時間目に、児童会主催の「焼きいも・仲良し集会」が開かれました。生活科・総合的な学習の時間に栽培したさつまいもが焼けるのを待つ間、縦割り班でゲームを楽しみました。ジェスチャーゲームは、お題を相手に伝わるように動作で表します。ばくだんゲームは、音楽が止まったとき、ボールを持っている人が、自分の好きなことを披露します。最後は、将来の夢を発表し合いました。楽しみながら縦割り班の友達のことをもっと知り、仲良くなれるゲームを考えてくれた児童会役員の皆さん、ありがとうございました。



25日



## 授業参観日

自分や周りの人をよく知り、大切に学習を、お家の方と共に学ぶことができ、ありがたかったです。

4年生は、視覚障害支援グループ「こまくさ」の小池康子さんに教えていただきながら、アイマスクと白杖体験をしました。「白杖はとても大切」「声で安心するから、たくさんかけてほしい」「案内する人は、不安にさせないようにしないといけない」等々、体験したからこそ学べたことがたくさんありました。相手のことを考え、「何かお手伝いすることはありませんか」と声をかけられる人になってほしいと思います。



5年生は、「花いっぱいプロジェクト」で育ててきたジャンボひまわりの種を風船で飛ばしました。コロナ禍の中、花いっぱいの世界にしたい！人とのつながりをつくりたい！そんな願いをこめて飛ばした風船は、高く高く飛んでいきました。そしてなんと…、翌朝には早速お返事のFAXが届きました。



(前略)26日朝、会社(上山田小学校の近く)に来たら風船を見つけました。よく見ると封筒がついていて、読んでみると何か「ホッ」とするような「優しい気持ち」になれるような、そんな感じがしました。コロナという病気のせいで、皆さんも今までと違う生活や環境の中、いろんな事があると思います。でも、いつかはいただいたひまわりの様に大きくて、綺麗で、見ているだけで明るい気持ちになれるような、そんな大人になってください。私たち大人のできる事は少ないかもしれませんが、あなたたちが立派な大人になれるように頑張ります。こんな気持ちになれたのも(皆さんの)おかげです。ありがとう。(後略)

## 校長講話

## わたしのせいじゃない ～人権月間によせて～

(前略)19日には、飯綱病院の院長先生に、わくわく未来塾でお話をいただきました。「人を助ける医療のお仕事をするためには、勉強だけではだめだよ、思いやりも必要だよ」とおっしゃっていました。焼きいも集会でもお話しましたが、医療のお仕事だけでなく、どんな仕事でも思いやりの心は必要です。牟礼小の皆さんには、自分のことだけでなく、周りの人のことを考えて行動できる人、思いやりの溢れる人になってほしいと願っています。そうして、思いやりの心をもった皆さんが大人になって、飯綱町が、思いやり溢れる人ばかりになれば、世界一素敵な町になることでしょう。

今日はそう願って、レイフ・クリスチャンソンの絵本を読みしたいと思います。





さあ、どうでしたか。泣いている子がいましたね。お休み時間にいじめられたようです。周りにいる人が、「わたしのせいじゃない」と言っていました。本当にそうでしょうか。考えてみましょう。

「ぼくもたたいた」という子。自分もたたいたのに、「みんなたたいたんだし、少しだけだからいいんだ」と言っていました。どうですか？（いけない）そうですね、みんなと一緒になら、誰かをいじめてもいいということにはなりません。少しならいいということも絶対ありません。

「はじめたのはわたしじゃない」という子。始めた人だけが悪いのでしょうか？　そうですね、はじめた人は当然悪いけれど、後からいじめた人も、同じように相手を悲しめています。

また、「見ていたけど、わたしのせいじゃないから知らんぷり」という子は、どうでしょう？　もし、自分がいじめられてつらい思いをしているときに、友だちが知らんぷりをしていたら、あなたはどのように感じますか。いやですね。知らんぷりをしている人、自分は関係ないよという人は、いじめている人と同じで、相手を傷つけていることには変わりはないのです。

そして、「いじめられている人は、かわっているんだ。だから自分のせいでよ」と言っている人がいました。「考えることがちがうから」「おもしろくないから」「ひとりぼっちでいるから」「よわむしだから」「何も言わないから」だから自分のせいなんだ…と。そうでしょうか。

私たちは、誰もが違っています。全く同じ人なんていません。隣のお友だちと自分では、目の大きさや鼻の形、髪型だって違いますよね。背の高さも足の長さもみんな違う。これが全員同じだったら、誰が誰だか区別がつかない。違うからいいんです。それと同じで、考えることだって、みんな違って当たり前なのです。楽しいと思うこと、やりたいと思うことも違って当たり前です。できることもあれば、できないこともある。得意なこともあれば、苦手なこともある。それが当たり前なのです。もし、考え方がみんな同じだったら、一緒に遊んでも、勉強しても、同じ考えやアイデアしか出なくて、ちっともおもしろくないでしょうね。お仕事も同じです。全員得意なこと、苦手なことが一緒に、お仕事をやる人たちが、みんな同じ考え方しかできなかつたら、この世の中は少しも進歩しないでしょう。違うからいいのです。

お話に戻って、「考えることがちがうから」「みんなと違うから」いじめられて当然…という考え方が正しいとすれば、「誰もがいじめられて当然。つまり、あなた自身もいじめられて当然で、いじめはあっても良い」ということになります。それでは、悲しいいじめはなくなりません。あなたもいじめられても仕方ないということになります。これは、間違った考え方です。

あなたの周りでは、そういうことはないでしょうか。この絵本では、「たたく」といういじめでしたが、その人が嫌がることを言う、物を隠す、無視をする、仲間に入れない…といったことも相手を傷つける「いじめ」ですね。そうしたことを、「みんなもしているから」とやってしまったことはありませんか。いじめられている人を、「わたしには関係ないから」と見て見ぬふりをしたことはありませんか。振り返ってみましょう。

「思いやり」というのは、相手の気持ちになって考え、行動することです。泣いている人がいたら、「どうしたのかな」「どこか痛いのかな」「悲しい思いをしているのかな」と想像してみる。そして、「どうしたの」と話を聞く。「自分だったら、どんな言葉をかけてもらおうと嬉しいだろう」「どんなことをしてもらおうと嬉しいだろう」と考え、自分が言ってもらおうと嬉しい言葉をかけたりする。相手の気持ちになって考え、行動すること。それが、「思いやり」です。

皆さんは、お家では家族の人と、学校では先生やお友だちと生活しています。一人ではありませんね。みんなが仲良く、幸せに暮らすには、相手の気持ちになって考え、行動する思いやりが必要です。そして、お仕事も一人ではできません。皆さんが将来なりたいと思っている仕事を思い浮かべてみてください。ひとりぼっちでできる仕事はありません。相談したり、分担したり、力を合わせないとできないのが仕事です。仲間と力を合わせるためには、相手のことを思いやる気持ちが大切なのです。



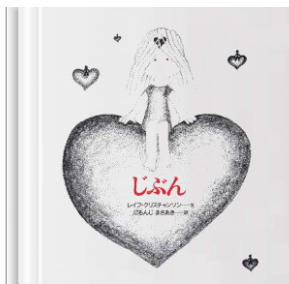
今、新型コロナウイルス感染症が流行っていて、みなさんも心配なことがたくさんありますね。

自分が感染したら、高い熱が出るのかな。咳がいっぱい出て苦しいのかな。学校をいっぱいお休みしなくてはならないのかな。ただ、この病気は、子どもが感染しても、症状が出ないことが多いそうです。インフルエンザは、感染するとすぐに高い熱が出て分かることが多いのですが、コロナウイルスは熱も出なければ、咳も出ない。それなら、「うつってもいいや」と、安心できるかというと、そうはいかないんですね。皆さんが感染してしまって、気づかないうちに家族の皆さん、おとうさんやおかあさんにうつしてしまうことがあると、大人の人のほうが重い症状になってしまうことがあります。おじいさん、おばあさんと、命に関わることもある病気です。それは困るよね。だから小学生の皆さんも、周りの大人の人のために気をつけなくてはいいのです。邪魔だと思ってマスクを外さない。マスクを外したときには、おしゃべりをしない。手をこまめに、きれいに洗う。給食などでマスクを外したらおしゃべりをしない。バスの中で大きな声で話さない。こうしたことは、周りの人を思いやる行動でもあるのです。

人は怖かったり、不安だったりすると、その怖いものを自分から遠ざけようとしてします。だから、「あの家の人がコロナに感染したらしいよ」とか「あの会社の人が感染したらしいよ」という話を聞くと、その家の人やその会社の人に、自分のそばには来ないでほしいとか、外に出歩かないでほしいとか思ってしまう。そして、本当のことなのか分からなくても、また別の人に話を広めてしまったりする。中には、電話をかけて名乗らずに、「買い物に行くな」とか、「町から出て行け」とか、ひどいことを言ってしまう人もいます。「コロナにかかった人が悪いのよ」「悪口を言われてもしょうがないのよ」。それでは、絵本にあったいじめと同じですね。



思いやりの心で考えてみましょう。だれが一番苦しい思いをしているのでしょうか。コロナに感染してしまった人ですね。それなのに、「買い物にも行くな」とか「出て行け」なんて言われたら、どんな気持ちになるでしょう。自分が言われたと思って想像してみましょう。つらいよね。悲しいよね。もしかしたら次は自分が感染するかもしれない。だったら、どうしたらいいのでしょうか。それを考え、行動するのが「思いやり」です。



最後に、同じ作者の絵本をもう1冊、紹介しますね。『じぶん』というお話です。みなさんにも、できることがたくさんあります。考えて、行動してみましょう。レイフ・クリスチャンソンさんの絵本は、図書館にあります。今日紹介した本の他にも「たいせつなあなた」「しあわせ」「うれしい」「ゆうき」など、心に響くお話がまだまだありますので、ぜひ読んでみてくださいね。

## 11月の活動から

たくさんの外部講師の皆さんにご協力いただき、豊かな学びを重ねています。



11日

6年生が能楽連盟の皆さんによる能楽体験教室で、本物の能面をつけたり、お腹からの発声に挑戦したりしました。



12日

4年生が、小玉の廣田勝さんを講師にお迎えて用水を見学。昔の写真と比べながら、用水の大切さを学びました。



17日

5年生が信濃町の MK 精工さんへ社会見学へ。部品が組み合わされて洗車機になる様子を見ることができました。



24日

3年生が、小玉の久保田さんの畑で、りんごの収穫体験をさせていただきました。コソをつかむまで慎重に収穫していました。



24日

2年生が、生活科で栽培した大豆の豆はたきをしました。たたところころ転がり出る豆を見て大喜びの子どもたちでした。



26,27日

3年生が、保存会の皆様のご指導で鍛冶体験をしました。社会科のくらしの移り変わりの学習に活かしていきます。



27日

マラソン大会は中止しましたが、朝の時間に体づくりでマラソンに取り組みました。1年生も元気よく走っていました。



30日

お弁当の日は、自分で作ったりつめたりしたご馳走を楽しみました。ALT のベック先生はプレートを手作りましたそうです。



1日(火) 5年プログラム出前授業、3年デイサービスとの交流(複数日)

4日(金) 5年収穫祭 縦割り清掃まとめの会

7日(月) 読書週間(～18日)

15日(火)～22日(火)

保護者懇談会①～⑥

16日(水)、17日(木)

おはなしの会読み聞かせ

23日(水) わくわく未来塾⑥

25日(金) 2学期終業式

